

編集後記

この秋の出来事と言えば梶田先生のノーベル賞と日本ラグビーの躍進です。この 2 つの、とても高くチャレンジングな目標に向かって何年もかけて準備し、その成果を世界に認めさせた偉業は、前者は勿論後者も世界を意識すべき研究者の心にも響くものがあつたのではないのでしょうか。

今回の物性研だよりには、3 つのワークショップ・研究会の報告がありますが、このような編集後記を初めて書くにあたり読み直すと、改めて物性研における研究会の質の高さと幅の広さを感じ、主催される先生方の見識の高さと共にこだわりと熱意が伝わってきます。分野の幅、バラエティという点では、電池の充放電における電子状態の研究、気泡生成の計算と 2 件の量子臨界の研究成果報告が唐突に並んでいるのは、今の物性研らしいのでしょうか。新しく近藤研の助教になられた黒田氏の記事でも、物性研全体を見渡して良い具合に異なる視点をもった研究室が集まっていると、若手の研究者の目にもそう映っているようです。上田先生の記事では、残念ながら記事の中で書かれているように、この物性研だよりのスペースでは全く足りないので、どこかで改めてたっぷりと書かれることを楽しみにさせていただきます。わたくし URA としては、渡辺氏の記事の後半は、広報とアウトリーチという面で勉強になります。尚、2 回ほどお休み致しました担当のインタビュー記事も次号からは再開する予定です。雑多なとりとめのない後記になって申し訳ありませんが、今後とも物性研だよりを宜しくお願い致します。

鈴木博之